

(1) 医学教育FD/IT活用研究委員会

本委員会は、医学教育のグローバルスタンダードを目指すための教員の教育能力の質保証を研究するため、21年7月9日に医学、歯学、薬学の3委員会合同で、吉岡俊正委員（東京女子医科大学）、奈良信雄教授（東京医科歯科大学）を招き説明を受けた。以下に概要を報告する。

- ① 医科大学の機関評価が国際的な医師の質保証の要件として考えられてきている。世界医学教育連盟（WFME）では、学部教育から卒後、生涯教育までの教育機関の認証評価基準を定めており、グローバルスタンダードとして、「理念・目的、教育プログラム、学生評価、学生の受入・生活・支援、教員・職員、教育資源、教育プログラム評価、管理運営、組織・教育改革」を掲げている。とりわけ、教育プログラムでは、「カリキュラムモデルと教育法、科学性・倫理性批判的吟味教育、基礎生体科学教育、心理行動科学・倫理教育、臨床医学と臨床御悩教育、医学教育カリキュラム運営など」としている。
- ② グローバルスタンダードにおけるFDは、基本基準として「医科大学はスタッフの教育・研究・診療能力のバランスの指針・評価基準を持ち、研究業績と教育能力を評価しなくてはならない」としている。教授選考の評価基準は、「教える・学ばせる・評価の教育実践力、教育開発・カリキュラム作成・評価法開発の教育企画力、教育運営能力と組織駆動力、臨床教員育成能力、教育評価能力、ロールモデルとしての人間性・プロフェッショナリズムの実践」を掲げている。
- ③ 日本の大半の医学教員は、教育のプロではない。欧米では医師ではない教育学の専門家が専任。教員の教育への関与が評価され、無報酬で教育に参加。日本は教育への情熱が乏しい。教員の意識を変えるにはFDの活発化と教育活動の評価が必要。
- ④ 日本の医学教育は、知識はあるが臨床例に馴染んでいないとの指摘をされており、講義からチュートリアル教育、見学型から診療参加型実習、カリキュラム改編が必要であるが、発想の転換にはファカルティデベロップメントが重要である。
- ⑤ FDは、参加体験型グループ学習とし、参加者全員が効果的な討論や作業を行い、成果を生み出すようにする必要がある。テーマとしては、PBL・チュートリアル教育、臨床研修・医師養成・指導医、カリキュラム関連、地域医療教育関連となっている。
- ⑥ 医学教育の向上には、教員が情熱をもって教育に参加する意識を高めるFD、評価、学生の自己学習力・問題解決力の強化、eラーニング、シミュレーション教育設備の整備が不可欠。

(25) 医学教育における情報教育

医学教育FD/IT活用研究委員会は、学士力考察をとりまとめた後、22年2月に1回開催した。検討では、医学に関する信頼性の高いWebサイトからの情報検索・収集と客観的な検証、情報倫理に配慮したプレゼンテーション、病院情報システムの仕組み、患者の個人情報保護の実践などを取りあげた。

【到達目標1】

情報通信技術を利用して、医学に関する情報の収集・蓄積・分析できる。

【到達度】

- ① コンピュータやネットワーク、アプリケーションソフトを適切に利用できる。
- ② 医学に関する情報の所在、構成、背景を知っている。
- ③ インターネットを用いて、医学に関する適正な情報を検索し、選別できる。
- ④ 選別した情報を用いて、解析・判断し、研究・診療計画ができる。
- ⑤ 多様な情報通信技術を用いて、情報倫理に配慮した効果的なプレゼンテーションができる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、初年次教育、共通教育などで培った基礎的なスキルを用いる。
- ②と③は、情報検索を実施し、信頼性の高い文献データや診療ガイドライン、適切なWebサイトに接続させ、情報収集の演習を行う。
- ④は、事例を用いて問題解決のために情報をEBMの手法に準じて処理し、その結果の妥当性を評価・判定する演習を行う。
- ⑤は、引用や剽窃などに留意して、プレゼンテーション、コミュニケーションの実習を行う。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、小テスト、口頭試問、レポート、プレゼンテーションなどにより確認する。
- ④は、小テスト、口頭試問、レポート、学習支援システムなどにより確認する。
- ⑤は、実技の観察評価(評価表)および学生の相互評価を含め、確認する。

【到達目標2】

電子環境下においても患者情報の保護に配慮した診療を実践できる。

【到達度】

- ① 病院で取り扱う情報の基本を理解し、正しく取り扱える。
- ② 病院情報システムの仕組みを概説できる。
- ③ 患者情報保護の重要性を説明し、実践できる。

【教育内容・教育方法】

- ①は、講義を中心に、電子データを含む多様なデータの特徴とメリット・デメリットを教え、臨床実習で実践させる。
- ②は、講義とフィールドワークで病院における情報の流れを体得させ、特性を理解させる。
- ③は、講義・事例検討で学習させ、臨床実習で実践させる。

【到達度確認の測定手段】

- ①～③は、講義などは小テスト、口頭試問、レポート、プレゼンテーションなどにより確認し、臨床実習は観察評価(評価表)、口頭試問などにより確認する。